

技術開発による国際物流への貢献

株式会社MTI 技術戦略グループ
シニアテクノロジーオフィサー 田村 健次

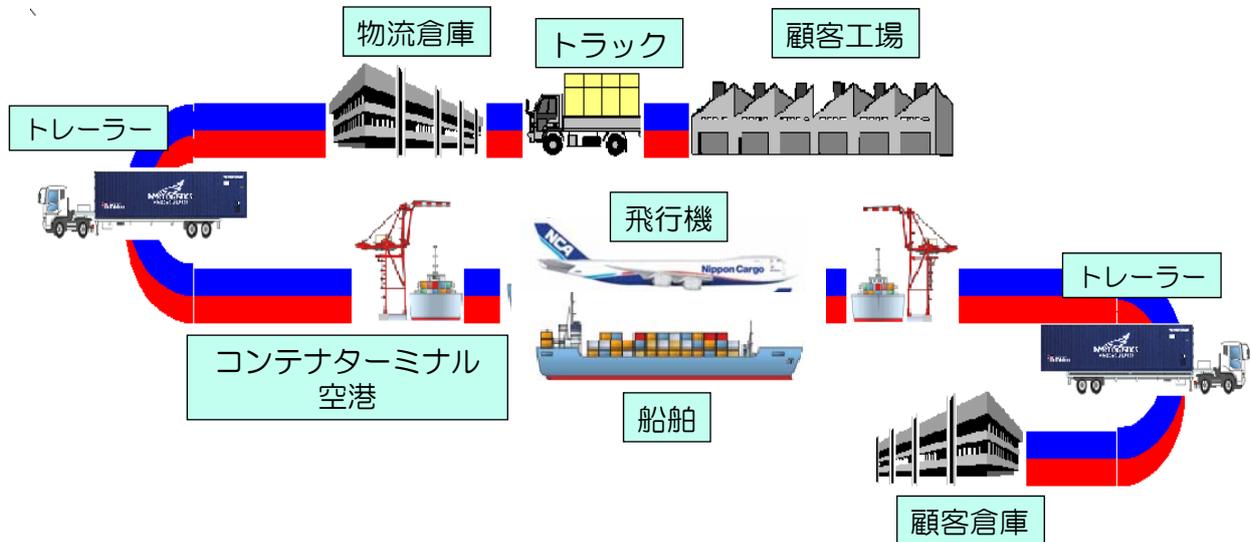


目次

1. 技術開発による国際物流への貢献とは
 - 1-1. 船舶技術開発による国際物流への貢献
 - 1-2. 物流技術開発による国際物流への貢献
2. MTI の取り組む物流技術開発
 - 2-1. 物流技術開発による輸送品質の差別化
 - 2-2. 物流技術開発による現場改善



国際物流とは



1. 技術開発による国際物流への貢献とは

1-1. 船舶技術開発による国際物流への貢献

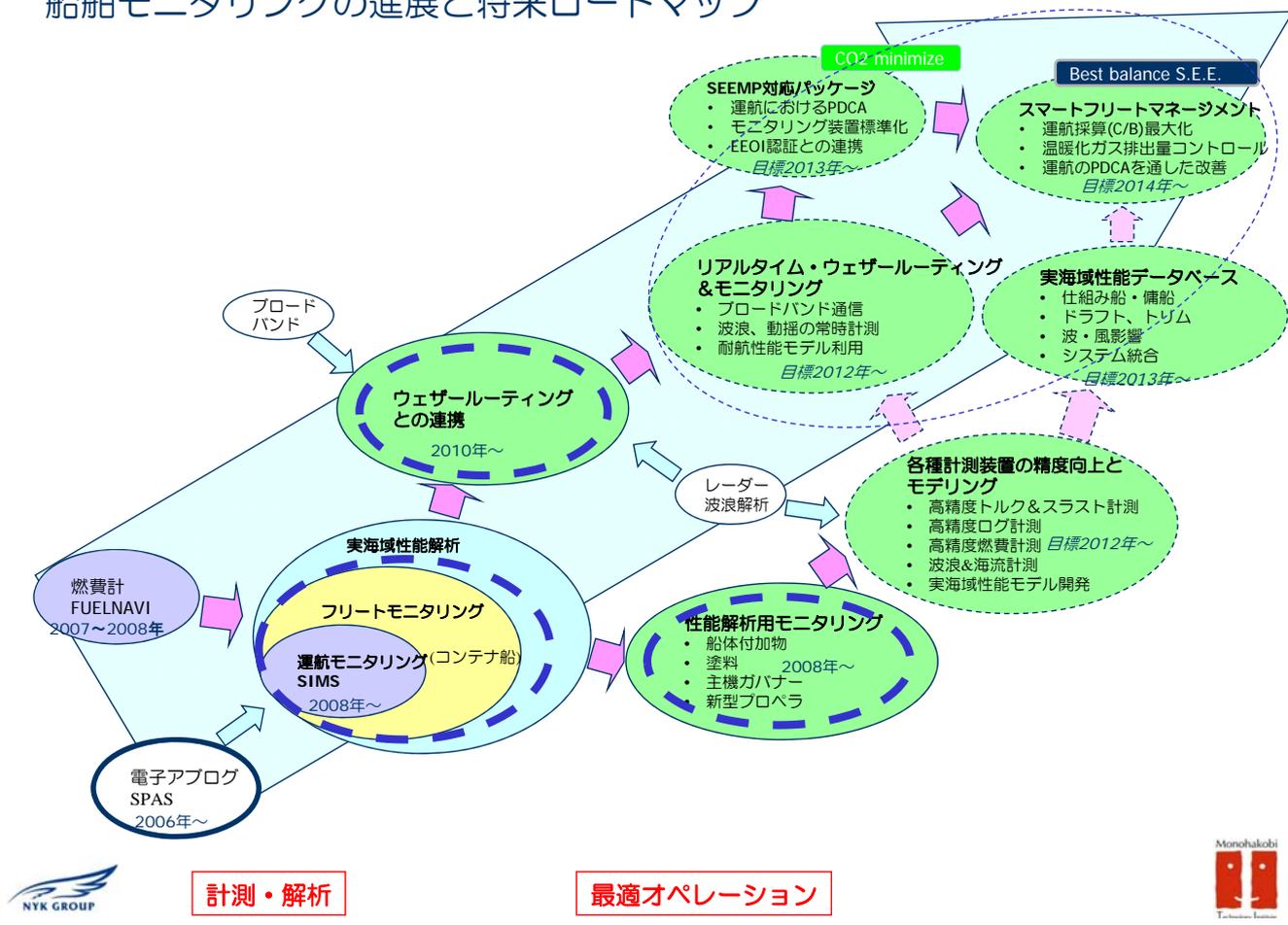
船舶技術開発
(安全運航、省エネ、環境)



安全、環境
経済性の差別化

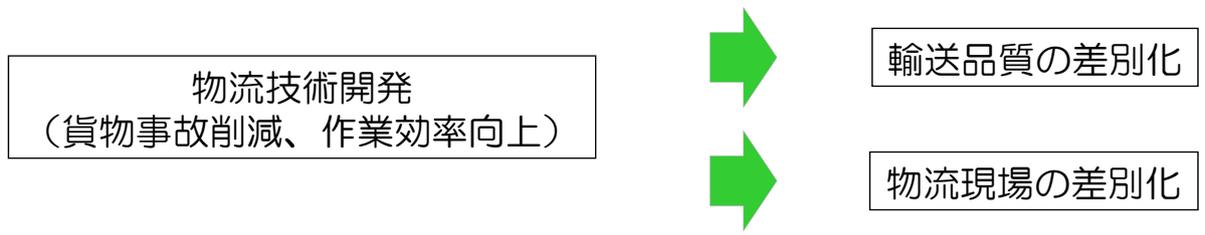
- ・「実運航における燃費改善のためのトリム最適化」
- ・「ハイブリッド過給機への実船検証からの提言」
- ・「日本郵船グループの空気潤滑法への取組み
- モジュール船からバルカー、そして未来へ-」

船舶モニタリングの進展と将来ロードマップ



Monohakobi Technology Institute

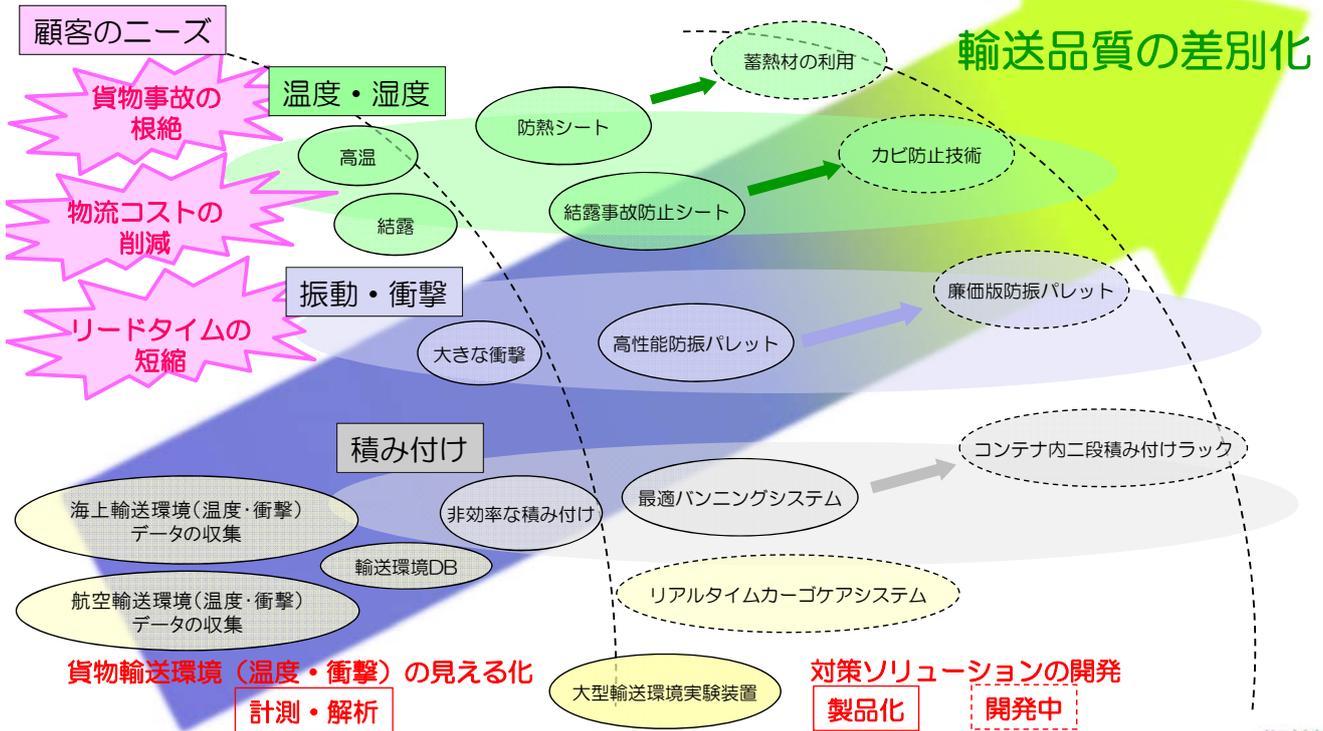
1-2. 物流技術開発による国際物流への貢献



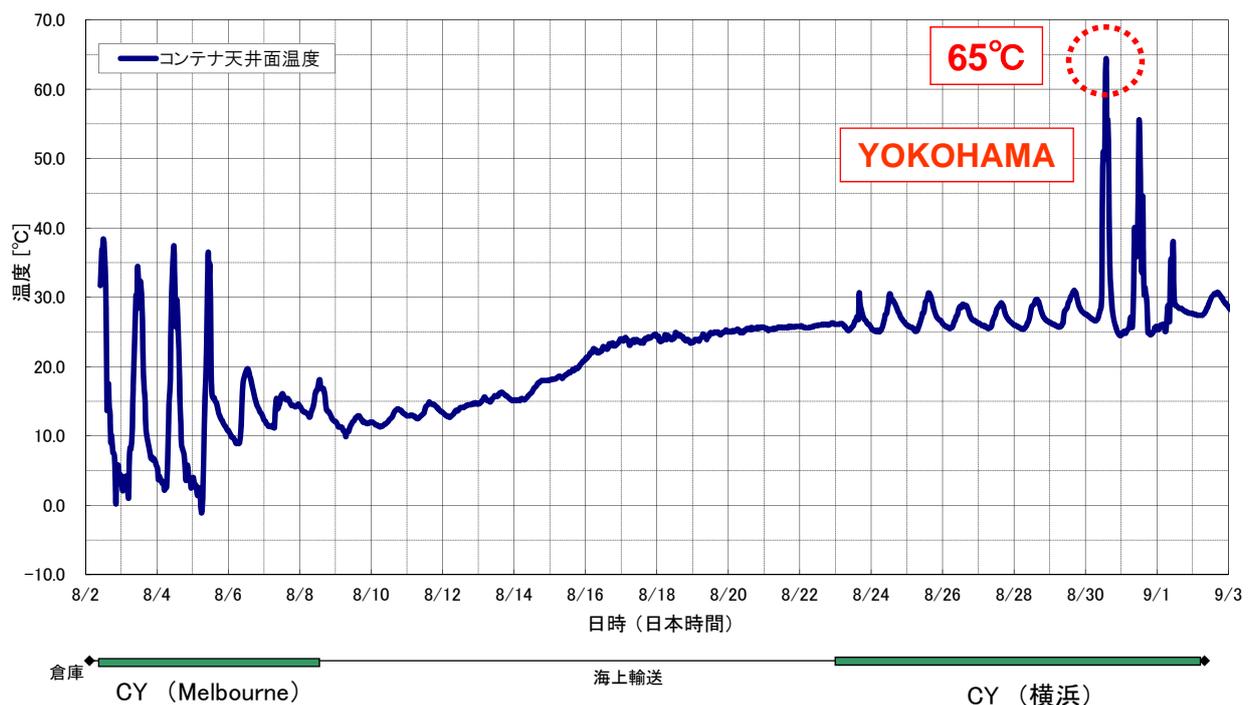
・「リアルタイムカーゴケアシステムによるCS向上」

2. MTI の取り組む物流技術開発

2-1. 物流技術開発による輸送品質の差別化



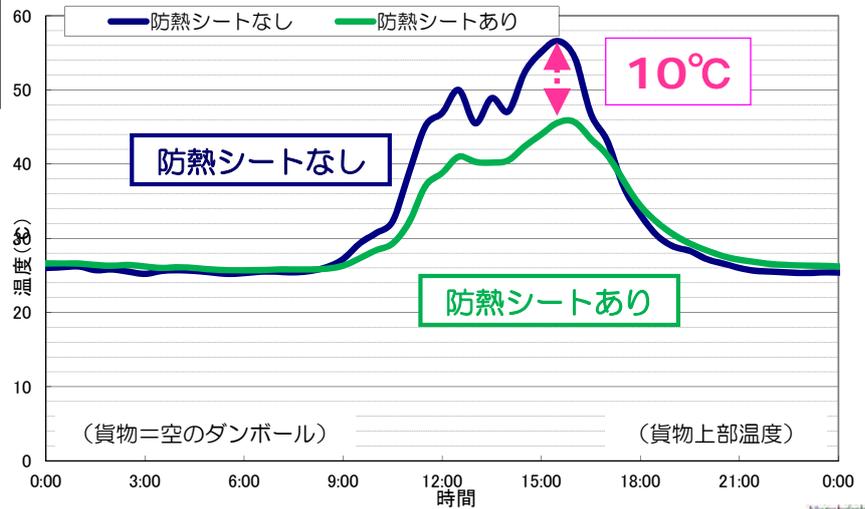
高温



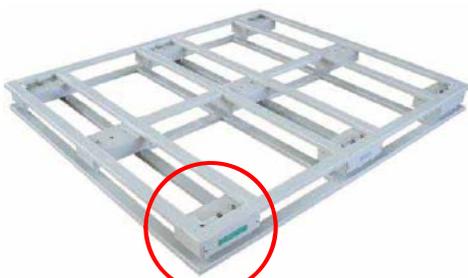
防熱シート



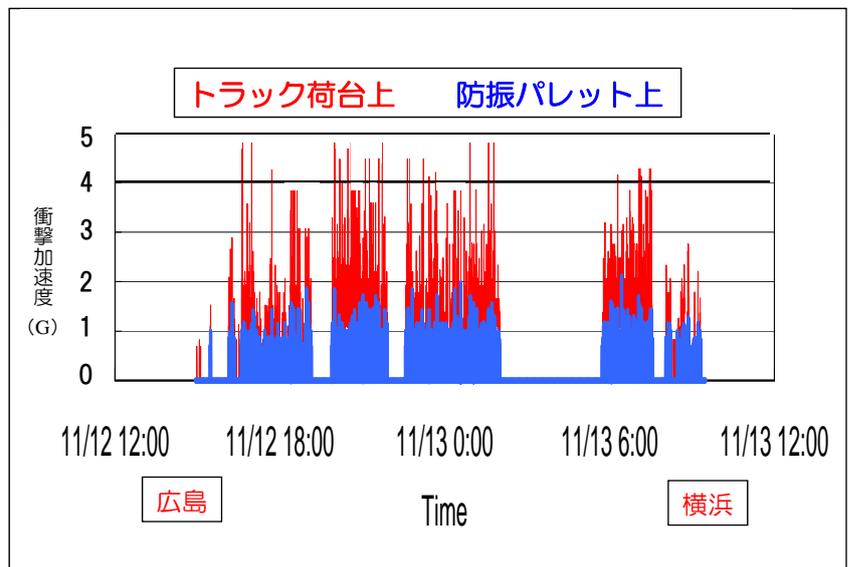
防熱シート



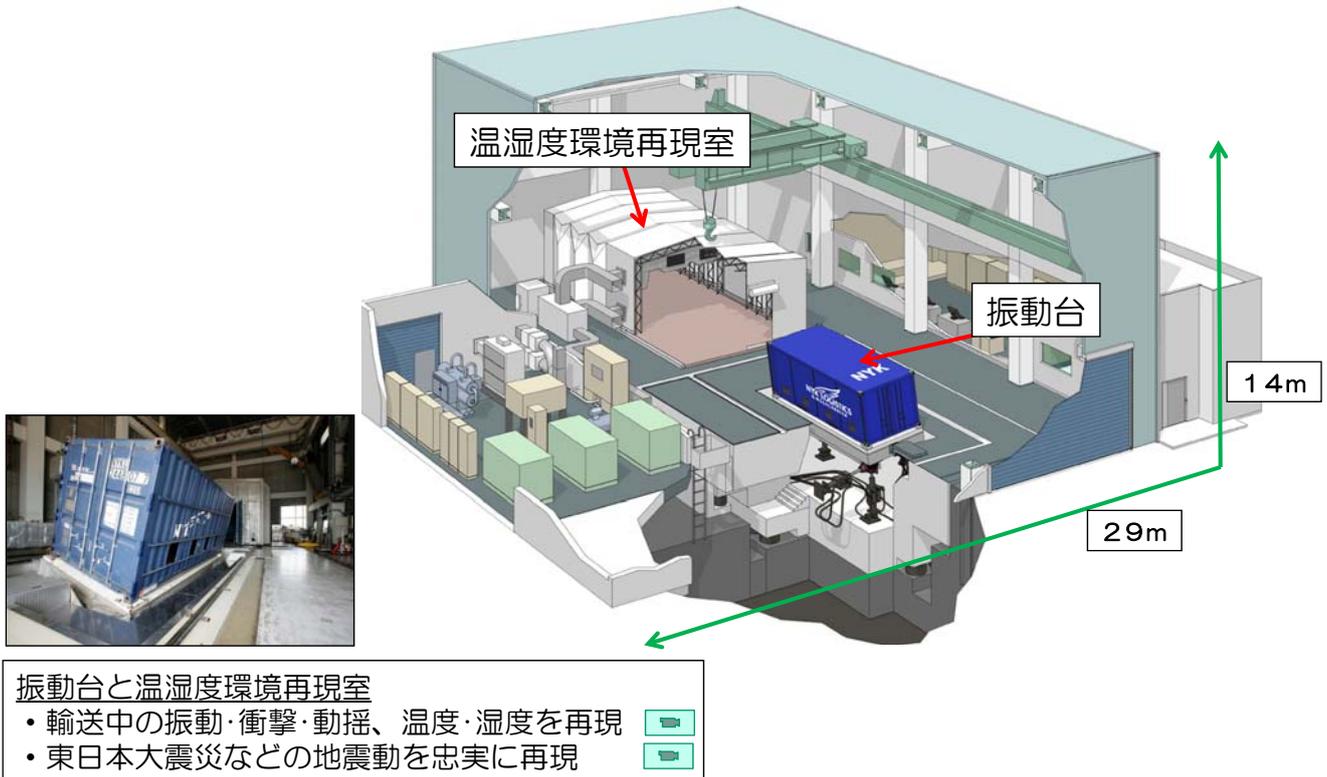
高性能防振パレット



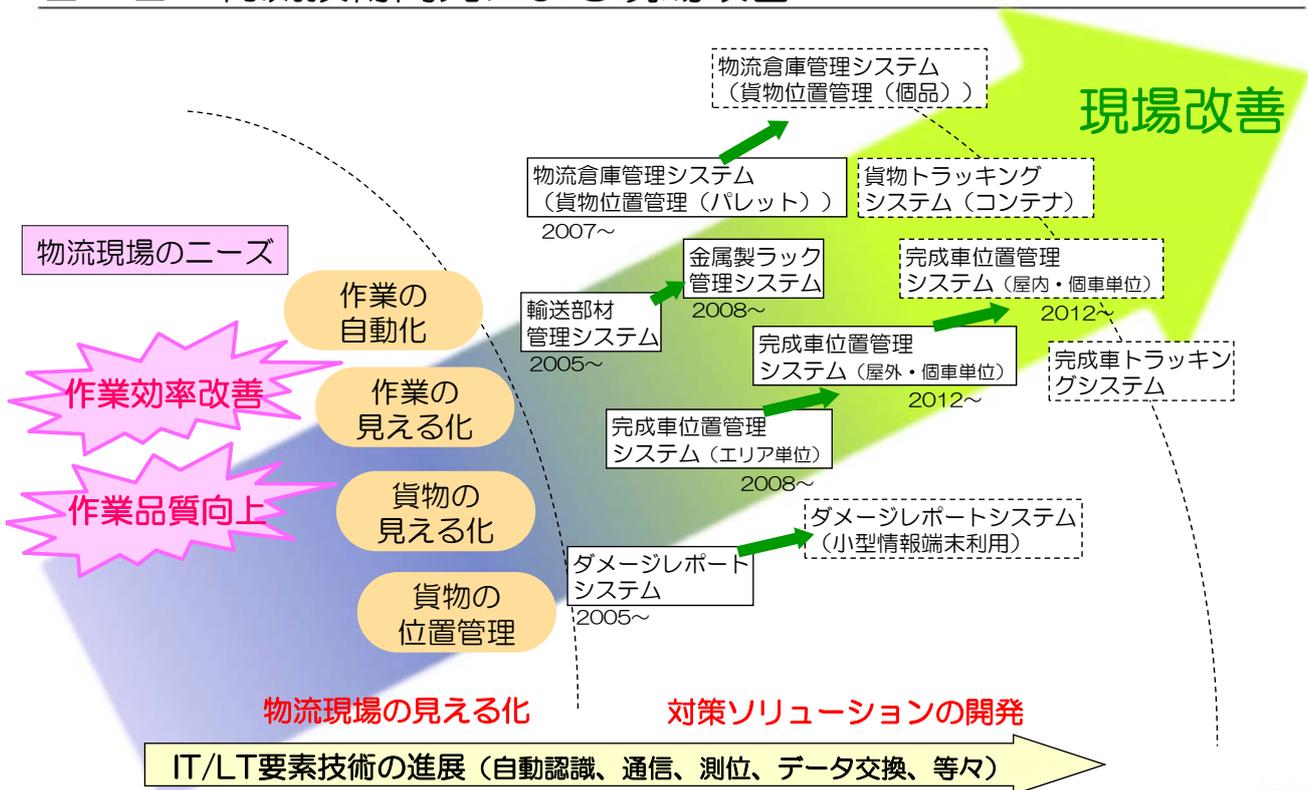
防振ゴム



YOKOHAMA LAB(大型輸送環境実験棟)

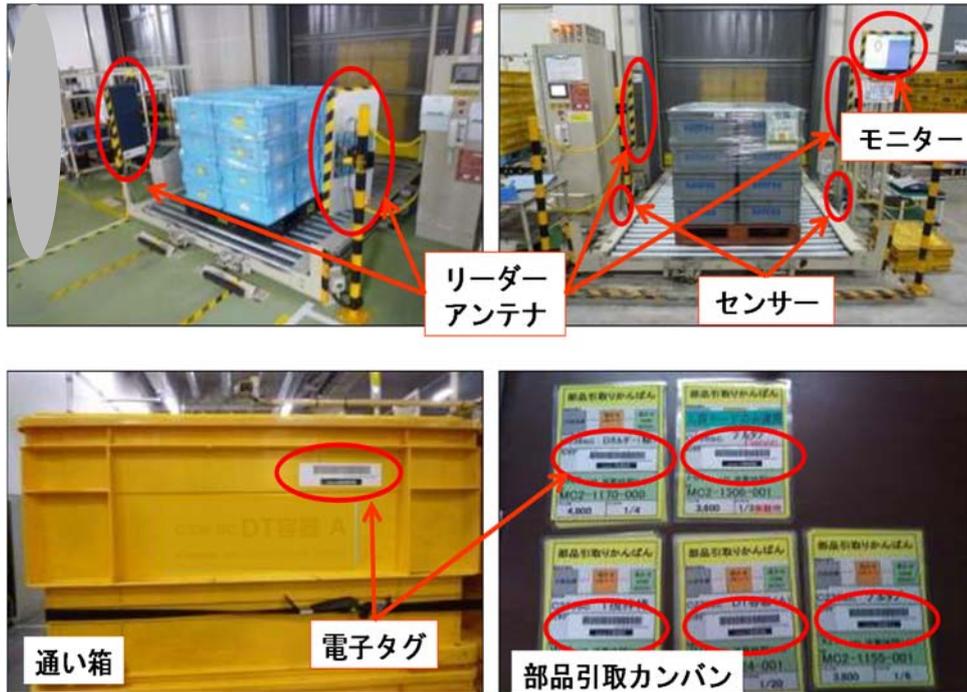


2-2 物流技術開発による現場改善



輸送部材管理システム

自動認識技術（RFID）による通い箱管理と伝票レス化



完成車位置管理システム

完成車蔵置作業と同時に自動的に位置情報を取得することにより、
①通常業務を効率化 ②残業を削減 ③ショートシップを防止



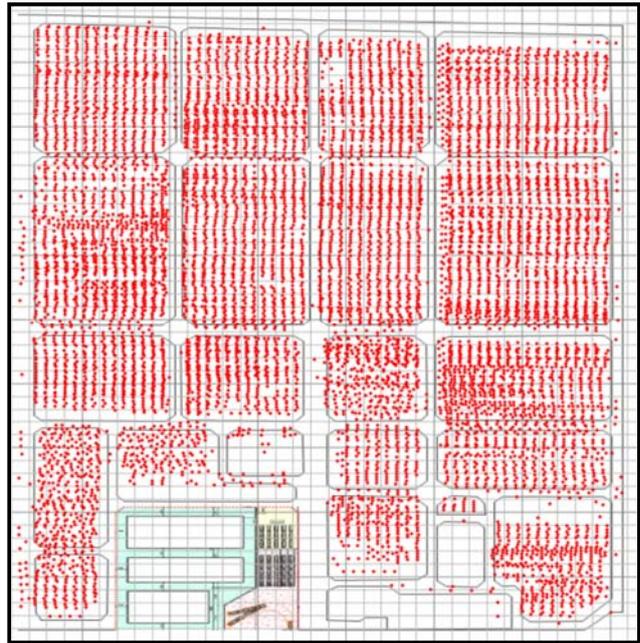
本船出航日 3/15

3/14に確定した船積対象車両の蔵置位置

ヤード蔵置車両約10,000台のなかから、右のような不規則に蔵置された343台を0.5営業日中に引抜する必要があった。



本システムにより、全台数の抽出を定時に終え、予定通り船積み完了できた。



自動車ターミナル

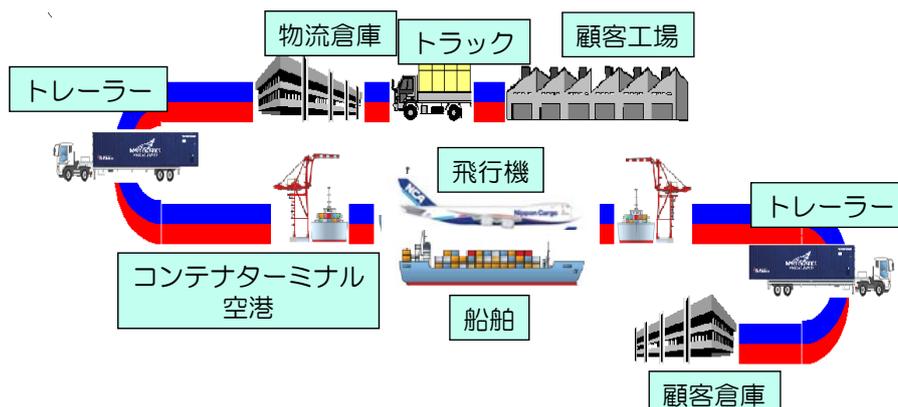
まとめ

1) 技術開発による国際物流への貢献とは、

船舶技術開発による海上輸送の安全・環境・経済性の差別化だけでなく、

物流技術開発による貨物の輸送品質・海上輸送以外の物流現場の差別化

もあること。



2) 物流技術開発では、

船舶技術開発同様に、MTIのコア技術である計測・解析技術により、

- 輸送環境の見える化を行い、輸送品質を守るソリューション開発
- 物流現場の見える化を行い、現場改善のソリューション開発
を行っていること。